

2024年3月13日

LNG 燃料自動車船「CERULEAN ACE」が竣工 ～2030年までに「LNG/メタノール外航船90隻」を着実に推進～

株式会社商船三井（社長：橋本 剛、本社：東京都港区、以下「当社」）が、株式会社新来島どっく（社長：森 克司、本社：愛媛県今治市、以下「新来島どっく」）に発注していた、LNG（液化天然ガス）を主燃料とする自動車船「CERULEAN ACE」（セルリアン エース、以下「本船」、註1）が、2024年3月13日に新来島どっく大西工場（愛媛県今治市）で竣工しました。本船は今後、マツダ株式会社（代表取締役社長兼 CEO：毛籠 勝弘、本社：広島県安芸郡府中町、以下「マツダ」）向けをはじめとする完成車輸送に従事します。

当社は、現時点で新造 LNG 燃料自動車船 14 隻（註2）の投入を決定しており、本船は、その中でも「[BLUE](#)」シリーズと銘打った国内建造船 11 隻のうち記念すべき 1 隻目です。LNG 燃料を使用することで、従来の燃料油に比べて二酸化炭素（CO2）の排出を約 25～30%、硫黄酸化物（SOx）の排出を約 98%、窒素酸化物（NOx）の排出を約 85%削減することが可能です。

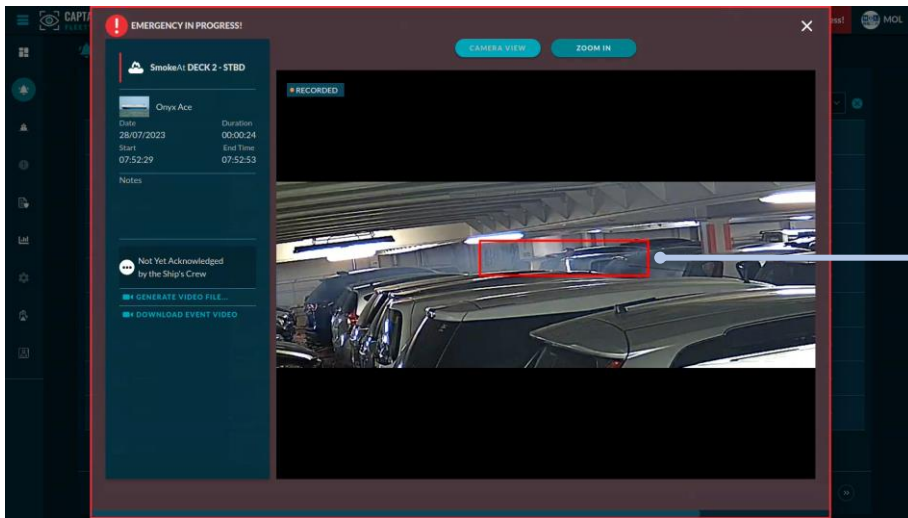
風圧抵抗を 20% 軽減する
エアロダイナミクスデザインを導入
（船首最上部傾斜構造）



LNG 燃料自動車船「CERULEAN ACE」

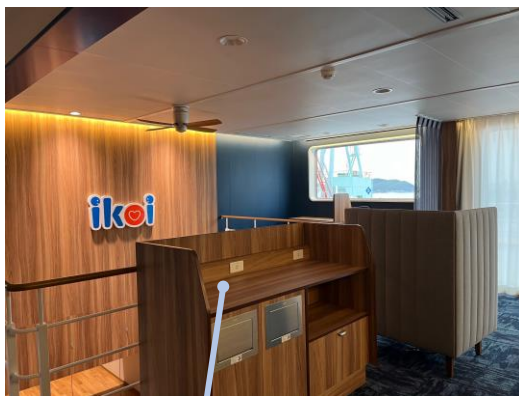
船幅を従来の 32m から 38m に広げ
積載台数を約 6,400 台から約 7,000 台にアップ

新来島どっくグループへの建造発注 100 隻目

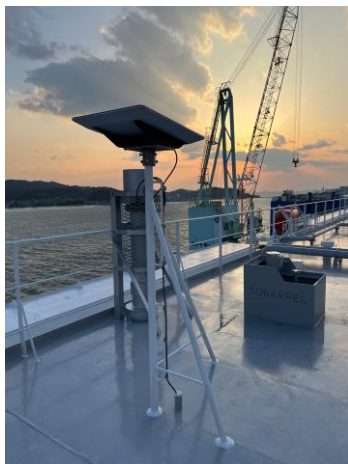


貨物艙内に設置した AI カメラ が
映像を瞬時に判断し
直ちに乗組員へ異常を伝達
(火災早期検知力の飛躍的向上)

テスト時の AI カメラのモニター画面 (煙を検知するとアラートが発出される)



乗組員の働きやすさを考慮し、
船内に居室でも職場でもない、
憩いの場となる第三の場所
「IKOI」を導入



乗組員の福利厚生への拡充に向け、
高速で低遅延接続が可能な
衛星通信サービス Starlink を導入

本船に設置されている Starlink のアンテナ



3月13日に実施した命名引渡式

マツダ 向井 武司 取締役専務執行役員（左から2番目）

当社 代表取締役副社長 田中 利明（右から2番目）

当社は、1965年に日本で初めて自動車船を就航させて以降、自動車船事業をグローバル市場でさらに発展させること目指し、世界各地でサービスを展開しています。今後も環境に配慮した、安全で効率的な運航を通じ、お客様への高品質なサービスを提供してまいります。

【本船スペック】

船型	: 7,050RT型 LNGDF 自動車運搬船（高圧式主機）
建造ヤード	: 新来島どっく 本社大西工場
全長	: 199.95メートル
型幅	: 38.00メートル
最大積載自動車台数	: 7,050台

（註1）「BLUE」から着想を得て、スペイン語で青空・空色を意味する「CERULEAN」を冠しました。

（註2）当社グループは「[商船三井グループ 環境ビジョン 2.2](#)」を策定し、2050年までのネットゼロ・エミッション達成を目標に定めています。その達成に向け「今すぐ実現可能な GHG 排出削減の取り組み」として、2030年までに LNG/メタノール燃料船を90隻投入する計画で、現時点で本船を含め33隻の LNG 燃料外航船の整備を決定しています。

商船三井グループが設定した5つの[サステナビリティ課題](#)

商船三井グループでは、グループビジョンの実現を通じて社会と共に持続的な発展を目指すための重要課題として「サステナビリティ課題（マテリアリティ）」を特定しています。本件は、5つのサステナビリティ課題の中でも特に「Safety & Value -安全輸送・社会インフラ事業を通じた付加価値の提供-」、「Environment -海洋・地球環境の保全-」、「Human & Community -人の活躍と地域社会の発展-」、「Innovation -海の技術を進化させるイノベーション-」にあたる取り組みです。



本件に関するお問い合わせ先

株式会社商船三井 コーポレートコミュニケーション部 メディア広報チーム

E-mail : mrtmo@molgroup.com / TEL : 03-3587-7015